ワープロを使う弊害について

松本成司
元理学部物理学科・２０Ｓ７０

本来インターネットを使った情報の伝達には一般的に開放的で誰もが自由に使える通信規約やデータ形式が重要視されてきました。またそのことはインターネットが普及するための条件であったとも言えます。世界にはいろいろな種類のコンピュータがあり、いろいろなソフト、いろいろな言語を使う人がいることを考えればこれは当然のことです。

ところが、Word などのワープロ･ソフトを使った場合、話は少し違ってきます。特定の会社の特定のソフトを購入して使用しない限り、情報交換が難しいからです。つまりワープロを使うことによってインターネットの利点が生かせず、本来自由にできるコミュニケーションが阻害されてしまいます。

このようなソフトはたとえ同じメーカーのソフトでもバージョンが変わると使い勝手が変わったり保存形式が変わったりします。古いバージョンとのデータの互換性も完全ではありません。ソフト会社の都合によって、新しいソフトを半ば強制的に買わされてしまう場合もあります。またソフトがバージョン・アップされる度に新たに購入しなければいけないという脅迫観念にかられて、必要もない機能が増えただけのソフトを買ってしまうということも少なくありません。もちろん自分の作成した文書が将来いつでもどこでも読めるという保証もありません。

Excel などの表計算ソフトにしても同様な部分があります。10 年前ならばともかく、授業でこれらのソフトを学生に無理矢理習熟させ、またレポート提出の際にこれらのソフトの使用を強制することは、情報技術の有効利用を推進するべき大学として、とても恥ずかしいことだと思います。

またワープロソフトで作成した文書をメールで送る場合、ほとんど同じ内容のものでも通常のテキストファイルの何倍ものデータ量を送らなければなりません。相手にも迷惑ですし、無駄なトラフィックを増やしてしまいます。

本当にどうしてもワープロの機能を使わなくてはならないのか、テキスト形式ではだめなのか、もう一度よく考えて下さい。テキスト形式ならどのようなエディタを使っても読み書きできます。テキストファイルでは役不足な場合、ホームページを記述する時に使われる HTML などの言語で書くこともできます。HTML ファイルはテキストデータですので、たいていどこにでももっていけますし、印刷する場合でもある程度はうまくいきます。もっときちんと文書整形しなければいけないときには、tex や latex を使うことをお勧めします。数式や表なども簡単に作成でき、参考文献などの取扱いも効率よくできるので、学位論文などの作成には不可欠といってもいいでしょう。

しかしそれにしても、『Ａ４版 (40 字 ×36 行) で、余白は 上 35 ミリ、左右 30 ミリ、下 30 ミリ字体は MS 明朝体、字の大きさは 文章が 10.5 ポイント、題字が 14 ポイント (中央寄せ) 名前が 12 ポイント (右寄せ)、所属が 10.5 ポイント (右寄せ) 配置が 1 行あけて題、1 行あけて名前、次の行に続けて所属と学籍番号 1 行あけて本文』という規格でのレポートを 1 年生の宿題として出す教官は学生に一体何をもとめているのでしょうか？　自分の悪趣味を学生に強要して学生の貴重な時間を無駄にしているとしか思えません。